

6. アンケート地区別分析項目

TU130104

6-3.茅ヶ崎 地区親の会 会員アンケート結果分析項目

①アンケート回収状況(アンケート属性、件数データ集計結果)

1)回収率

回答件数	18 件
総発行数	35 件
回収率	51.4 %

年齢構成

年齢	人数	男	女
9	0		
12	0		
13	0		
14	0		
15	3	3	
16	2	2	
17	0		
18	2	1	1
19	2	2	
20	1	1	
21	3	2	1
22	4	4	
23	1	1	
27	0		
30	0		
未記入	0		
合計	18	16	2

2) 日中活動の場

	件数
34 通信制高校	1 名
35 特別支援学校高等部	5 名
42 大学	2 名
51 通所福祉施設	5 名
61 普通企業	2 名
62 特例子会社	1 名
70 在宅	1 名
72 その他	1 名
合計	18 名

3) 障害者手帳の状況

療育手帳 A1	5 名
A2	2 名
B1	4 名
B2	1 名
B3	1 (神奈川判定B2)
精神 2級	2 名
精神 3級	2 名
無し	1 名
合計	18 名

4) 記入者

1 本人	2 名
2 家族	16 名
合計	18 名

5) 住んでいる所

1 自宅	17 名
3 GH	0 名
4 入所	1 名
合計	18 名

2 総回答件数状況

1) NO 質問項目	○良かった事	●困った事	20 望む事	30:合理的配慮	合計件数	%
NO1 療育・教育	12	18	5	5	40	17.6
NO2 障害児支援	8	14	5	0	27	11.9
NO3-1 働く(一般就労)	7	11	4	1	23	10.1
NO3-2 働く(福祉就労)	3	5	7	2	17	7.5
No4 医療	10	19	3	3	35	15.4
NO50 警察や交番・司法	2	0	2	0	4	1.8
NO6-1 生活支援(店舗等)	8	9	5	1	23	10.1
NO6-2 生活支援(公共交通機関)	5	11	3	1	20	8.8
NO6-3 生活支援(消費生活等)	1	2	0	1	4	1.8
NO7 生活(住まい)	1	2	3	0	6	2.6
NO8 救急・消防・災害	3	2	3	2	10	4.4
NO9 政治参加	0	0	0	0	0	0.0
NO10 社会参加	11	7	0	0	18	7.9
合計	71	100	40	16	227	100

検算 227

2) 自由記入

NO 質問項目	件数
10 困った事	1
20 助かった事、親切だった事	0
30 アンケートへの感想、意見	2
40 会への要望、意見	0
50 その他	8
合計	11

②生活シーンNO項目別回答コメントの分析概要報告(茅ヶ崎)

NO1 療育・教育

・療育については、ほぼ全会員の子どもの年齢層が高く、現場の声が少ないが、振り返りの中での意見があった。ただ今その状態(対応等)が継続しているかは不明。

・保健所・病院・通園施設・学校の職員に専門性がなく、親や子どもに対しての不適切なアドバイスが更に療育や教育を困難にしている。また通学支援や校内の障害理解についての体制が脆弱だった。(以下代表的な具体的内容)

- ① 様子を見ましようというだけで具体的な診断がなく、早期療育ができなかった。
- ② 通園施設で大きな音や怒声にパニックを起こすと、「そういう音に慣れるために、家庭でもそういう状況をつくってみてほしい」と言われた。同様に、「卒業後困らないように言葉だけで指示が伝わるように指導します」と言われた。
- ③ (教師に)大きな声で「おはよう！」といきなり背後から抱きつかれてパニックになった。感覚過敏なのに鳴いている蝉を渡されてパニックになった。
- ④ 療育や教育が成功するか否かは教師次第
- ⑤ 養護学校高等部にスクールバスがなかった。
- ⑥ 大学時に発達障害がわかり、学校側に支援を求めたが理解を得られず断念する状況に追い込まれた。

(望む事として) 教職員対象の研修の義務化及び専門性の強化、通学支援、わかりづらい障害でも特性に沿った支援がほしい、専門家を養成し早期発見・早期療育をしてほしい、相談のたらいまわしはやめてほしい、

(合理的配慮) 本人が理解できる支援環境づくり(視覚支援や構造化等)、専門性をもった人材育成、職員間で支援の方向性や支援方法の共有をすること、通学支援(スクールバスの増便等)・校内の障害理解促進と相談体制強化

NO2 障害児支援

・児童相談所・放課後支援・部活動・習い事等の場面において、専門性やサービスの不足がある。(以下代表的な具体的内容)

- ① 相談事業所の職員が状況や障害特性を理解してくれず、更に個人情報データを紛失した。
- ② 障害特性(感覚過敏や時間・予定へのこだわり等)に配慮してもらえず、パニックを起こした。
- ③ 年齢が上がるにつれ、放課後や休日に過ごせる場所が少なくなる。
- ④ 移動支援利用の際、毎回違ったヘルパーを派遣され、本人が本人のペースで楽しむことができない。
- ⑤ 部活動で皆と同じにすることが厳しく求められたため孤立し、精神的にも追い詰められた。
- ⑥ 成長すると、小学生の中に一人大きい子がいる状態になってしまい、スイミングの退会を勧められた。

(望む事として) 年齢が上がった時に使える遊び場がほしい、支援者は子どもの状況を他の支援者と共有してほしい、習い事にも障害児用のクラスや配慮がほしい

(合理的配慮) 児童相談所の機能強化、放課後サービスの充実、支援者の専門性向上、習い事の場の障害理解促進

NO3-1 働く(会社などの一般就労)

・面接等、まず就労の入口からつまづきが多く訴えられている。本人に寄り添うサポーターなしでは、就労のルールに乗ることすらできない。また就労訓練や就労定着についても企業側の障害理解が足りていないために困難が生じている。会員だけでなく会員の子も本人からの回答があったが、アンケート自体が障害特性に沿って作られていないという指摘があった。(以下代表的な具体的内容)

- ① どうしても手書きでないと困るエントリーが多すぎる。
- ② 求められる人物像が「コミュニケーション能力(対人関係構築力)」ばかりでうんざりする。この項目が続く限り、バリアフリーはありえない。
- ③ 面接は結局支援センターが事前に仲介に入らない限り無理。また自分の障害を説明することが難しいので、第三者の同行が許されないと面接で不合格になってしまう。
- ④ 職員マニュアルが持ち出し禁止なので、本人にとって必要なルールや手続きなどがわからない。
- ⑤ 契約更新時に親や第三者が立ち会えない。
- ⑥ 支援センターは学生は利用できない。
- ⑦ 就労訓練の際に障害特性を理解されにくい場合があり、誤解されて注意されるので自己否定が強くなった。

(望む事として) 発達障害の理解がある就労訓練の場がほしい、障害の種類や軽重にかかわらずジョブコーチをつけた一般就労がしたい、面接の場にサポーターの同行がほしい、就労の場の選択肢

(合理的配慮) 就労訓練・面接・就労定着の場に、サポーターの配置や障害への配慮のある環境整備を行う。

NO3-2 働く(福祉的就労・施設・作業所など)

・圧倒的に現場職員の専門性や力不足への訴えが多い。また作業内容についても工夫が足りない、収入が少ないといった訴えがあった。(以下代表的な具体的内容)

- ① 障害に対して経験・知識のない職員が十分な研修も受けずに現場に入り、他の職員に適切な指示をだせず混乱している。
- ② 仕事内容が単調で種類が少なく飽きてしまう。また収入となる仕事が少ない。
- ③ 通常業務ができなくなった時に他のスケジュールがなかったため、一日仕事がない状態があった。

(望む事として) 職員の専門性向上(勤は大切だがしっかり知機をもった上での勤であってほしい。パニックになった時に力づくでおさえつけない。必要のないところに行動の規制をかけない。正しい知識を持つ。)、工賃額の改善、作業内容の工夫、学生にも短期間の実習の機会を与えてほしい。

(合理的配慮) 障害者本人を中心とした支援の組立、職員の研修強化、現場のコンサルテーション体制強化、工賃額の改善、作業内容の工夫、利用者の対象拡大

NO4 医療

・診察にかかる前の困難さが大きく、その時点で診察する機会を失っていく状況がある。待合室の時間や待合室での刺激(子どもの声や工事音等)、医療従事者の障害理解のなさ、症状をうまく伝えられないことでの診察拒否等、治療に至ることが難しい。地域ではそのため死に至った自閉症児の事例もあり、生死にかかわる支援の現状が浮かび上がった。(以下代表的な具体的内容)

- ① 入院・通院できる病院へのコンタクトや予約後、待たなければならない日数がかかりすぎる。(数か月～数年)
- ② 待合室でじっとしてられない。また混んでいる病院ほど途中で出られない。じっとしてられなくて出てしまうと順番が遅くなる。(他の人に白い眼で見られた)
- ③ 小さい頃、医者にこんな子は診察しづらいと言われた。
- ④ 専門医であるはずの医者が、無遠慮な言葉や早口により子どもをかえって混乱させることになった。
- ⑤ 予防接種や耳垢取りをしようとしたが、子どもが暴れてできなかった。
- ⑥ かかりつけ以外の医者に行ったところ、「この子は薬にどのような反応がでるかかわからない」と言われ、一時診察拒否されそうになった。
- ⑦ 感覚過敏のため、腹部に聴診器を当てられるとくすぐたくて仕方がない。感覚過敏のためハンドクリームが塗れない
- ⑧ インフルエンザになったが、「本人は錠剤しか飲めない」と言ったところ、「未成年にはタミフルを処方できない」と言われ、吸引薬を処方されたが吸引できなかった。

(望む事として) あまり待たずに診察できる、もしくは診察まで待てるような工夫がほしい、医師や看護婦も障害について学んでほしい、障害者の特性に配慮して彼らの扱いに慣れてほしい、診察・治療・検査の手順や内容をイラスト等で本人に見せてから開始してほしい

(合理的配慮) 待合室の個別化やポケットベルによる順番表示、医療従事者対象の研修、視覚化等による診察スケジュール提示や触感による医療器具への恐怖感除去

NO5 警察や交番・司法

・現在、大きな事件は地区内では起こっていない。警察とのかかわりも本人が迷子になった場合などに限られ、弱者への対応なので優しく対応してもらっている。しかし会員の多くが行動に特徴を持つ成人の男子だということを踏まえれば、今後警察や司法関係者への障害理解啓発が重要だと思われる。

(望む事として) 自閉症スペクトラム者は挙動不審が日常茶飯事なので冤罪で逮捕される率が高くなる可能性がある。警察官や検察官、弁護士には障害の特性についてよく学んでほしい。

(合理的配慮) 警察官・検察官・弁護士対象の研修強化、特に法廷弁護士に障害についての専門性を持ってもらうこと、犯罪に巻き込まれた初期の段階から、本人の権利を守るトラブルシューターの導入

NO6-1 生活支援(店舗・レジャー施設・余暇の場)

・障害特性故の行動が理解されず、一般店舗ではトラブルの原因となることがある。店舗の安全管理や接客マニュアルと障害理解はセットで考えてもらう必要があると感じる。(以下代表的な具体的内容)

- ① 女子トイレの出入り口で母を待っていたら不審者と間違われて警備員に通報された。
- ② 男子トイレの個室で大声を上げたので警備員に通報された。
- ③ マニュアル通りにしか対応しない店員や早口な店員とのやりとりは難しい。
- ④ 映画チケットのネット販売やディズニーランドのゲストアシストカードは便利。
- ⑤ 飲食店メニューは選びやすいようできるだけ写真を入れてほしい。説明も視覚的に理解できるようにしてほしい。

(望む事として) 飲食店では、待ち時間や食事場所に配慮をしてほしい、障害特性故の行動を理解してほしい。

(合理的配慮) 飲食店に仕切りのある席や個室を用意してもらう、商品を視覚的に表示する、店舗職員対象の障害理解研修を行う

NO6-2 生活支援(公共交通機関)

・公共交通機関のルールが理解しにくいことや割引システムを使用する際の手順の複雑さが問題となっている。特にSUICAカードを使っただけのバス乗車券割引が難しい。障害者仕様の割引方法が必要と思われる。また利用する交通機関で乗務員の障害への無理解によるトラブルも起きている。(以下代表的な具体的内容)

- ① 乗車時の列がわかりにくい。
- ② 幼児の声でパニックを起こし、暴れたまま下車。通報されホームで駅員に囲まれ、更に人が集まりますますパニックに。
- ③ バスに単独乗車時、運転手が手帳を見てくれないので軽く肩を叩いたら、殴られたと言われ、警察に通報すると言われた。それ以来その路線バスには一人で乗車できなくなった。
- ④ バスで障害者割引をしてもらう際、SUICAをタッチするタイミングが難しく、運転手から叱られた。また混雑時などはうまくいかないし他の乗客の視線も厳しい。それ以来一人の時はバスを利用しなくなった。
- ⑤ 飛行機の優先搭乗は便利。

(望む事として) 割引方法を簡単にしてほしい、障害者用SUICAの発行、障害特性を理解して親切に対応してほしい

(合理的配慮) 障害者用SUICAの発行、乗務員への障害理解の研修強化、切符売り場やホームでの構造化

NO6-3 生活支援(消費生活・情報アクセス・コミュニケーション保障)

・宗教勧誘、財産管理、役所手続きについての意見があった。(以下代表的な具体的内容)

- ① 家族がいなくなったあとの財産管理等の方法がわからない。
- ② 役所手続きの際、子どもを連れて行ったがじっとできず大変だった。
- ③ 宗教の勧誘が多い。

(望む事として) 必要な手続きの際の子どもの預かりサービス、財産管理のアドバイザーがほしい

(合理的配慮) 必要な時にすぐ対応できる預かりサービス、成年後見支援センター機能の活用

NO7 生活(住まい)

・多くの会員が将来の子どもの住まいをケアホームと希望している。また自宅の暮らしでは、近隣の理解が鍵である。(以下代表的な具体的内容)

- ① 子どもが隣の家の薬臭に対する不快感を隣家に伝えたが親としては近所との関係性もあり、緊張した。
- ② 将来家族が亡くなり一人残された場合、どこで生活できるか心配。
- ③ 本人に合った利用しやすいグループホーム建設が進めばいいと思う。

(望む事として) 将来グループホーム・ケアホームに子どもを入れたいと思っているので、増設してほしいし運営の金銭的支援をしてほしい。

(合理的配慮) グループホーム・ケアホームの増設、障害理解のある職員や世話人の配置

NO8 救急・消防・災害

・自閉症児者に緊急時を理解させ避難することはむずかしいが、地域の理解と協力により、避難訓練ができたケースがあった。災害時の心配の多くは避難方法と避難場所についてで、そこに障害特性に合った支援が求められる。(以下代表的な具体的内容)

- ① 避難所の数少ないトイレの個室にこもって占領してしまった。
- ② 民生委員のはからいで家族不在時に消防士さんの誘導で一時避難所に避難するという訓練ができた。
- ③ 誘導非難訓練を通じて消防士に自閉症児のことを知ってもらえた。

(望む事として) 災害時のスムーズな避難と避難場所の整備を進めてもらいたい、誘導時や避難所に視覚的コミュニケーション支援ツール(イラスト・写真等)を用意してほしい、避難所に自閉症者用別スペースを設けてほしい、

(合理的配慮) 避難時誘導のための視覚的コミュニケーションツールを用意する、一般避難者への障害理解リーフレット配布、災害時トイレ増設、避難所障害者用スペースの確保

NO9 政治参加

・意見はなかったが、それが選挙に行っていない(行けない)ということであれば、問題はあ

(望む事として) 本人が候補者を視覚的に選ぶことができる選挙資料を投票所に置いてほしい、投票所に障害者を誘導できるサポーターを置いてほしい、後見人をつけた場合選挙権が失われる今の制度を改善してほしい

(合理的配慮) 視覚的資料とサポーターを投票所に置く

NO10 社会参加(地域、自治会、民生委員など)

・地域の人たちは比較的受け入れてくれようとしているが、障害特性をまだよく理解していない人が多いため、よかれと思ってしてくれたことが、障害者本人の負担となる場合がある。(以下代表的な具体的内容)

- ① 民生委員が「光とともに…」を読んでくれて他の民生委員にも薦めてくれた。
- ② 民生委員の勧めで緊急時に備えて要支援者のリストに載せてもらい、本人の情報を冷蔵庫に入れている。
- ③ 年齢と共に行動の異常さが目立ち、周囲から奇異の目で見られることがある。
- ④ 地区の民生委員がスポーツチーム(ローリングバレー)に誘ってくださり余暇が増えた。
- ⑤ 盛り上がり、周囲で歓声が飛び交いパニックに。好意の大歓声にその場でうずくまり競技を続けられなくなった。
- ⑥ 地域の行事に一人で参加できない。

(望む事として) 受け入れてくれると同時に、障害特性を理解して、得意なことと苦手なことを知ってほし

(合理的配慮) 一般市民向けの障害理解リーフレットの配布

全体としてのコメント

・様々な項目の具体的内容や望むことに共通しているのは、「障害特性に沿った支援が少なく、その支援がほしい」ということだと感じた。

また今回はほとんどが会員である親の記述だが、親子で書いてくれた人からは「親と子では思っていたことにずれがあった」「感じ方や捉え方のレベルに違いがあることがわかった」という意見があった。また子どもである障害当事者が回答するには記述式の設問が多く、このアンケート自体が合理的配慮に欠けるという評価があった。

地域に生きるということでは以下の意見があった。

- ① 月一回、普通級に入れてもらい、同い年の子どもたちと過ごすことによって知ってもらおうとした。
- ② 電車のお出かけや買い物、映画鑑賞など、できるだけ外に連れ出して地域の人に知ってもらおうとしている。
- ③ こんな子が地域にいと知ってもらいたいため、子連れで外に出て笑顔で元気な挨拶をするようにした。
- ④ 町内会の組長になった時、子どもの障害について近所の人に理解してもらうために回覧板を回した。
- ⑤ 理解してもらうには時間もかかるし、なかなか難しいと思うので、まず「知ってもらう」から。
- ⑥ 「ちょっと違ってかわった子」だけれども、「ああ、そんな子よくいるね」と思ってくれる、偏見ではなく共存するという考え方に周囲の人たちがなってくれるといいなと思います。